

和名：(なし)

学名：*Phytophthora kernoviae*

英名：Beech bleeding canker、Phytophthora canker、Rhododendron dieback

分布

英国、ニュージーランド、アイルランド

宿主植物

セイヨウキヅタ、セイヨウヒイラギ、アセビ属、コナラ属、ツツジ属、ブナ属、ユリノキ属等

病原体

疫病菌の一種。培地で培養できる。遊走子のうを形成するが、厚壁胞子は形成しない。遊走子のうは、倒卵形～レモン形、あるいは左右非対称形、乳頭突起は顕著、大きさ 34～52×19～31μm、脱落性。有性器官は同一菌株内で形成され(雌雄同株性)、造精器は底着性、卵胞子は充満性である。本菌は主に、葉や枝に生じた遊走子のうが風雨や霧で飛散して伝搬する。

病徴及び被害

本菌に感染したブナ属の一種(*Fagus sylvatica*)では、地際部の幹に壊疽と樹脂の流出を生じる(図①)。同様の症状は、コナラ属(*Quercus robur*等)にも生じる。樹皮はしばしばくぼんだり、隆起することもある。ツツジ属の一種(*Rhododendron ponticum*)では、枝枯れ、葉の壊死および萎ちょうを生じ、急に落葉する。特に激しく感染した低木は枯死に至る。また、宿主によっては、葉や枝の褐変を生じる(図②)。

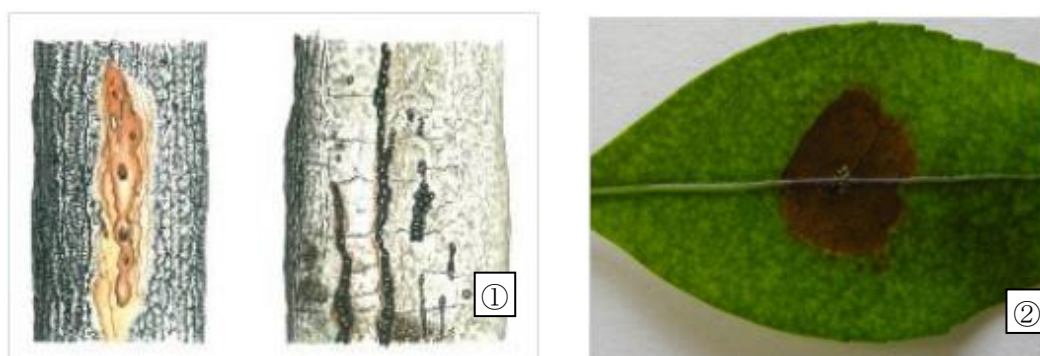


図 ブナ及びアセビの病徴
①：ブナ科樹木の幹のかいよう(左)及び樹液漏出(右)
②：人工接種で褐変したアセビ葉